

ASDoQ大会2012

ASDoQの1年3カ月

2012年10月5日

山本雅基（ASDoQ，名古屋大学）

目次

1. ASDoQの歴史
2. 作業部会の活動
3. 今後の計画

ASDoQの歴史

設立と目的

- 設立： 2011年7月11日
- 目的

(1) システム開発文書品質の提案

ソースコードに対しては、複雑度などの品質評価指標が定義されています。しかし、開発文書に対しては、ソースコード行数あたりのページ数などが提案されているだけでした。

ASDoQはシステム開発文書品質を研究し評価指標を提案します。

(2) 計測技術の研究

システム開発文書品質の計測は、機械的だけではなく、人間が意味を読み取りながら行うことが想定されます。計測結果の信頼性を高めるために、計測技術に関する研究を行います。

(3) システム開発文書品質の普及

システム開発文書品質の評価指標と計測技術を公開しその普及に努めます。これにより、技術者の文書作成力の向上ならびに産業の発達に寄与します。

「文書品質」と「システム開発文書品質」

品質の良い
文書

品質の良い
システム開発文書

ASDoQが追求する文書

システム開発文書では
考慮する必要のない文書特性

一般文書と
システム開発文書に
共通する文書特性

システム開発文書に
固有の文書特性

会員数（10月1日現在）

- 法人会員
 - ＞ 11社
- 個人会員
 - ＞ 67名
- アドバイザ
 - ＞ 2名
高田広章（名古屋大学）， 田丸喜一郎（IPA/SEC）
- 運営スタッフ
 - ＞ 代表幹事：1名， 幹事：4名， 運営委員：7名

活動の記録

- 定例研究会
 - ＞ 第1回研究会（'11/7/11）：41名参加
 - ＞ 第2回研究会（'11/11/9）：30名参加
- 主催ワークショップ
 - ＞ ウィンターワークショップ（'12/2/17-18）：17名参加
- 外部団体との連携活動
 - ＞ SWEST13（'11/9/1-2）：ポスター，チュートリアル，パネル
 - ＞ JaSST'11 Tokai（'11/11/11）：ポスター，SIG
 - ＞ 電子情報通信学会 SIG-KBSE（'11/11/11）：研究発表
 - ＞ ソフトウェアシンポジウム2012（'12/6/12-13）：ワーキンググループ
 - ＞ SWEST14（'12/8/30-31）：ポスター，ワークショップ
- 広報
 - ＞ ESEC, ET, ET-West において，IPA/SECブースで展示とセミナー
- 作業部会 後述

会員が文書品質に関心を持つ理由

1. 顧客要求に応えるため

- ＞ 設計書の価値を証明せよと顧客に求められる

2. 上流工程の業務増加

- ＞ 上流工程では、設計書などの開発文書の納入が必須

3. 開発作業の質を高めるため

- ＞ 開発文書の品質が開発作業の質を決定づける（仮説）

4. 見積もり精度を向上させるため

- ＞ 開発文書の品質と見積もり精度に相関がある（仮説）

5. ビジネスと技術の変化に対応するため

- ＞ 開発文書を書けなければ、様々な規格に準拠できない

6. 人材育成の道具として開発文書を用いるため

- ＞ 1-5のためには、現場の技術者の文書教育が必要

作業部会の活動

3つの作業部会

■ロードマップ部会

主査：山本修一郎（名古屋大学）

登録者：11名

目的：文書品質に関連する文献調査を行い，この分野の研究動向と今後に必要な研究をまとめる

■用語定義部会

主査：塩谷敦子（イオタクラフト）

登録者：20名

目的：研究会で今後，品質属性を定義していくために，まず，基本的な用語の定義を行う。

■人材育成部会

主査：山本雅基（名古屋大学）

登録者：18名

目的：教育での使用を目的として，開発文書のサンプルを作成する。

ロードマップ部会

- 目標
 - ＞ システム開発分文書品質に関連する先行研究を調査し、ホワイトペーパーを作成して学会で発表
- 進捗状況
 - ＞ ‘12.2 : 合宿での集中的な文献調査, Ver.0作成
 - ＞ ‘12.4~ : 技術カタログの整理
 - ＞ ‘12.9 : 人工知能学会 知識流通ネットワーク研究会で Ver.0を発表
- ホワイトペーパーの概要
 - ＞ (記述表現, 開発文書, 開発プロセス, 開発コミュニケーション) x (モデル, 品質計測, 管理) の区分で, 技術を整理
 - ＞ 技術の整理に基づいて, 着目すべき技術の選択を容易にする

ホワイトペーパーの概要

| 章 | モデル化 | 品質計測 | 管理 |
|-----|---|-----------------------------------|--|
| 2.1 | 開発文書文章表現方法 開発文書の標準化 | | 開発文書管理 |
| 2.2 | 技術文書の記述作法 開発文書のひな形の定義 組織コミュニケーションモデル 開発文書の記述言語 | ソフトウェアの品質定義 情報品質の定義 開発文書の計測 | |
| 3.1 | 開発工程活動と開発文書の対応 | レビューやテストによる品質確保 開発文書品質保証の範囲 | 開発文書の変更管理 開発文書におけるステークホルダ管理 派生開発文書管理 運用・サポートを考慮した開発文書管理 インクリメンタル開発文書管理 |
| 3.2 | PMBOKと開発文書の関係整理 | | |
| 3.3 | 開発手法に対する文書体系の構築方法 | 開発文書体系品質計測 | 開発文書成熟度 |
| 3.3 | 開発文書による人材育成カリキュラム | 教育効果の計測 | |
| 4.1 | 開発文書評価次元 | | |
| 4.2 | 開発文書コミュニケーションモデル | 開発文書コミュニケーション品質計測 | 開発文書コミュニケーション管理 |
| 5.1 | 開発文書品質モデル | 開発文書品質計測技術 開発文書品質向上技術 | |
| 5.2 | 開発文書コミュニケーション情報モデル | 開発文書コミュニケーション情報品質計測 | 開発文書コミュニケーション情報管理 |
| 5.3 | 開発文書範囲の定義 | | |

用語定義部会

- 目標

- ＞ 「ASDoQ標準用語」を決め、その定義と用語の扱いの方針を示す.
- ＞ システム開発文書品質に関連する重要用語を「関連用語」とし、調査と整理を行う.

- 進捗状況

- ＞ ‘11.10~：定義すべき用語の検討開始
- ＞ ‘12.2~：一般的な用語の調査と用語定義案の作成
- ＞ 現在：用語集(v.0)をASDoQ用語定義部会の中間報告として公開

- 用語一覧

- ＞ システム開発文書品質
- ＞ システム開発文書
- ＞ システム開発
- ＞ 文書品質

以上は、ASDoQ標準用語として定義

ASDoQ標準用語と関連用語

- ASDoQ標準用語（現在4用語）
「システム開発文書品質」を研究する上で、
必要となる用語の定義や扱い方に関する方針を示す
- 関連用語（現在31用語）
「システム開発文書品質」に関連する用語の中で、
重要であると思われるものをリストアップし、調査と整理を行う

<ASDoQ標準用語の定義>

システム開発文書品質

システム開発文書における文書品質

ASDoQは、今後、システム開発文書の文書品質における特性を議論する。
現在、この特性の検討候補として、用語定義部会では次を挙げている。

- ・必要十分性
- ・正確性
- ・無矛盾性
- ・非曖昧性
- ・簡潔性
- ... など

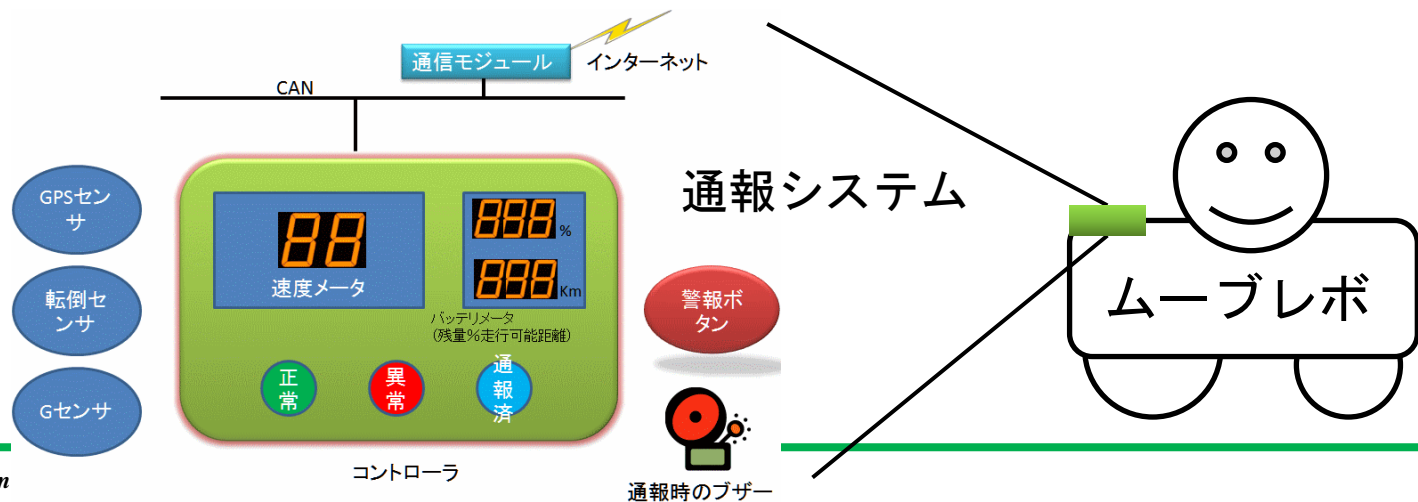
システム開発

要求を入力として受け、定められたプロセスを経て、システムを成果物として出すまでの行為

ASDoQでは、現段階において、JIS X0170で定義されたシステムライフサイクルのテクニカルプロセスを、システム開発の範囲とする。

人材育成部会

- 目標
 - ＞ 文書品質が高いソフトウェア要求仕様書例を作成
 - ＞ ASDoQのWebページで公開し，会員らの教育活動に活用
- 進捗状況
 - ＞ ‘11.11~：対象システムの検討
 - ＞ ‘12.6~：対象システムの決定
 - ＞ 現在：要求仕様書の目次作成中
- 開発中のソフトウェア要求仕様書
 - ＞ 名称：ムーブレボ通報システムソフトウェア要求仕様書



作成中の目次案

- 正解は一つには決まらない（はず）
- 各自が作成し持ちよる.
- 良い所を共有し，各自で改訂を繰り返す

1. はじめに
2. 入出力要求
3. 機能要求
4. 信頼性要求
5. 使用性要求
6. 効率性要求
7. 保守性要求
8. 移植性要求
9. 制約事項

1. はじめに
2. 外部インターフェース
3. 機能要求
4. 速度性能要求
5. 信頼性要求
6. 可用性要求
7. セキュリティ要求
8. 保守性要求
9. 移植性要求
10. 機能安全要求
11. 制約

1. はじめに
2. ソフトウェア要求仕様の一般的な説明
3. 入出力データの定義
4. 要求仕様の具体的な説明
5. 制約

- ・ 章の単位では三者三様.
- ・ 文書全体では，同じ内容となることが期待される

今後の計画

文書品質に関する議論の継続

- 作業部会の継続と新設
 - ＞ 現行3部会の活動は、目標を達成するまで継続実施。
 - ＞ 新たな作業部会の提案は、常時受け付ける（後述）
- 研究会・大会・ワークショップの定期開催
 - ＞ システム開発文書品質の研究・教育・実務などについて会員の取り組みを相互に発表する場を設ける
 - ＞ 次回研究会
 - 12月5日@フェリカネットワークス会議室（東京）
 - 話題:原口智史「開発文書品質の定量化」(仮題)
 - その他企画中
 - ＞ 次回ワークショップ
 - 詳細未定. 宿泊して集中作業を行う
 - (案) 作業部会の集中作業
 - (案) システム開発文書品質特性カタログ(仮称)作成

システム開発文書品質特性カタログ(仮称)

